

会議録（概要）

会議名等	令和5年度 第2回四街道市特別支援連携協議会		
年月日	令和6年2月27日（火）	時間	14:00～16:30
場所	四街道市役所第二庁舎第2会議室		
出席者	委員 砂川委員 塩田委員 張能委員 岩井委員 安部委員 松崎委員 岩森委員 高塚委員 小島委員 伊藤委員 事務局 羽田指導主事 大川指導主事		
欠席者	松浦委員 松崎委員 楠岡委員 松島委員 坂本委員 笠松委員 木内委員		
傍聴人	0人		
<p>—— 会議次第 ——</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育委員会挨拶</p> <p>3 座長挨拶</p> <p>4 議題</p> <p>（1）報告</p> <p>①令和5年度特別支援体制推進事業の成果と課題について</p> <p>②通常の学級在籍児童生徒用「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の様式について</p> <p>③相談支援ファイル「にじいろサポート」について</p> <p>④令和6年度就学説明会について</p> <p>⑤令和5年度青い麦の子振興ふれあい運動会について</p> <p>（2）協議</p> <p>・令和6年度の取組について</p> <p>5 閉会</p> <p>—— 会議要旨 ——</p> <p>1～3 会議次第に従い進行 羽田指導主事</p> <p>4 議題</p> <p>（1）報告</p> <p>①令和5年度特別支援体制推進事業の成果と課題について</p> <p>事務局：事務局より説明</p> <p>安部座長：連絡会議の第2回目の千葉テク障がい者校とは何か？</p> <p>岩森委員：職業訓練校で、千葉県下にくつつかある。特別支援学校を卒業されて入校するケースや、ハローワークを通じて障害を持つ方が行くケースもある。誉田駅の近く</p>			

にある。高校を卒業してから行く人もいる。カリキュラムの途中で就職される方もいる。すべての方がすぐ就職するわけではないが、就職に向けて学習する学校である。

岩森委員：関係課特別支援担当者会議に書かれている、にじいろサポートの周知について、課題にある療育手帳再交付時にお知らせするということについて聞きたい。

事務局：再交付時の申請の時だけに関わらず、来庁したときにご案内している。

安部座長：専門家チーム会議の巡回相談の今年度の活動回数は何回か？

事務局：今年度はなかった。通常の学級の児童生徒対象の個別の指導計画についてのアドバイスをいただいた。課題としては、事務局でコーディネートする必要があること。

安部座長：医療的ケアについて、訪問看護ステーションが委託先となることでのメリットは何か？

事務局：業務委託にする以前は、看護師の人数と日数が限られており。看護師が体調不良等で休みのときに代わりに配置される看護師がいなかった。訪問看護の委託にすることで、毎日看護師が来てもらえる。  
来年度以降も委託の方向。

②通常の学級在籍児童生徒用「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の様式について

③相談支援ファイル「にじいろサポート」について

④令和6年度就学説明会について

事務局：事務局より説明

安部座長：質問等はあるか。

小島委員：クレパスの会の小島です。

個別の指導計画を中学校1年生の息子が活用している。中学校へ進学するときに、小学校から引き継ぎされたが、中学校卒業後はどうなるのか。

事務局：卒業後5年間の保存が望ましいとされている。原本は保護者の方に返却されるため、にじいろサポートにとじておくことになる。

伊藤委員：小学校から中学校へ進学するときは、保護者の了承を得て引き継ぎをする。中学校卒業後、高校等へも引き継ぎをした方がいいと思うが、いろいろな保護者の考えがある。もし高校へも引き継ぎたい場合は、それも可能。中学校卒業後は、活用されているケースもあれば、活用されていないケースもある。

安部委員：通常の学級在籍者用の個別の指導計画だが、必要などろだけ記入して、後は空欄でも可能か。

事務局：可能。

高塚委員：周知はどのように？

事務局：令和5年度の特別支援教育連絡会議の中で、特別支援教育コーディネーターには

説明はしてある。令和6年度は、特別支援教育研修会や教頭会校長会で周知をしていく予定。

安部委員：にじいろサポートについては、四街道市でも長い間活用している。今後も活用していきたい。

安部委員：就学相談説明会は、いつ始まったのか。今年度の保護者の様子や雰囲気はどうだったのか。

事務局：平成30年から開催している。コロナ禍は、人数を制限して（定員20名）2回実施。第二会議室で開催。教育委員会が説明をして、それに対しての質問を受けた。質問では、「特別支援学級の先生は免許を持っているのか。」「入級はどうしたらよいか?」「病院に行った方がいいか?」「検査を受けた方がいいか?」等の質問が出た。

その後、就学相談を個別に行った。

伊藤委員：私が平成30年にいたときに始めた。

来年就学、というときに保護者は相談しなくてはと思うが、それより前に、いろいろ気にかけている人が多いため、幅広く情報提供の場を作る必要があるな、というのが最初の考え。第二庁舎は保護者にとって敷居が高い、と思ったため、わろうべの里で開催した。「くれよん」はわろうべの敷地内なので、お子さんを預かってもらっている間に保護者が参加できるとよいと思った。最初から、多くの保護者にご参加いただいている。30、31年度は実施しているはず。令和2年度は未実施。3・4年度から第2庁舎で実施した。来年度からはわろうべの里に戻すつもり。個別の相談は全員やりきれないので、年長さんだけに限る。

岩井委員：くれよんの岩井です。37名実施したという話だが、年長さんに限らず実施したということか。

事務局：年中は2、3名しかいなかった。やはり年長の方が多い。

岩井委員：就学に向けて興味のある保護者が多いので、年長以外も参加できるとよい。来年度は定員があるのか?

事務局：来年度は定員を設けない。

安部委員：周知はどうするのか。

事務局：幼稚園・保育園にリーフレットを配布する。関係各課にも周知し来庁者に配布する。市ホームページ、市政だよりにも掲載している。

#### ⑤令和5年度青い麦の子振興ふれあい運動会について

事務局：事務局より説明

安部座長：質問はあるか。

小島委員：開催時期について検討する必要がある、とあるが、来年度も開催時期に変更がないようだが、なぜ検討する必要があるのか。

事務局 : 小中17校の学校行事と重複する場合があります、いくつかの学校は時期をずらすことを望んでいたが、全体を考えると同時期にやらざるを得なかった。

安部委員 : 本校も運動会を直近で行っている。特別支援担任と日程について大丈夫か確認したところ。

バスが遅れることもあり、人数の問題もあった。

事務局 : 今年度になってからの準備だったため、遅くなってしまったこともあった。

安部委員 : 頒布会も大盛況だった。大変なことはあると思うが、市内でやっていくのは大事なこと。

## (2) 協議

- ・令和6年度 of 取組について

### ①特別支援教育連絡会議について

高塚委員 : 特別支援教育連絡会議について、千葉テク障がい者校に見学に行ったことがある。できることは限られているが、先生方に見ていただく、ということが大事。進路をどんな風にやっというかと考えている先生も多いため、そういった進路先を見学に行かせてもらうのもよい。

事務局 : 連絡会議については、おととしまでは3回実施していた。1回目は小学校の授業参観と情報共有。2回目は夏休み中に特別支援学校の見学。3回目は情報交換。近年は2回の実施。放課後デイや保護者が増えたため、参加者がとても多い。駐車場の問題もあり、見学先をどうしようかというところ。

伊藤委員 : 見学する方法はある。

会議とは別に、自由参加の見学会という手もある。以前は特別支援学校に行かせてもらった。実際に行ってみて、肌で感じるものがある。

安部委員 : 自分も見させてもらったり、さくら分校にいったりしたことがある。人数の問題もある。

見学先として、事務局に紹介できる場所はあるか。

事務局 : 「くれよん」の見学はどうか。

小島委員 : 子供が小学校にあがったとき、小学校の先生に「放課後デイサービスってどんなところですか。」と聞かれた。子供たちは放課後こんなところで過ごしていると、見てもらうのもよい。

事務局 : 小学校の先生も知りたいし、放課後デイサービスのスタッフも学校の先生方とお話したいという声を聴く。

安部委員 : 先生方は、知らないため、見させていただくのもよい。

事務局 : 今回は運営委員会で、千葉テク障がい者校があがった。会場や講師として、おすすめがあれば教えてほしい。

岩井委員 : 1月17日に第2回特別支援教育連絡会議に参加させていただき、情報交換会がとてもよかった。

いろいろな職種の方が集まってグループワークをして、いろいろな課題について  
討論した。それは続けてほしい。

事務局：情報交換会は、先生方にも必ず入れてほしいと言われている。

1 回目に十分時間がとれなかったため、2 回目は長めに時間をとった。

2 回目の特別支援教育連絡会議の中で性教育についての要望もあったため、助産  
師さん等をお願いするのもよい。いろいろな方にお話をお伺いしたい。

## ② 専門家チームの活動について

事務局：今、本市では学校と特別支援学校が直接連絡をとっていいことになっているが、  
そのことをあまり知らない学校がある。周知が必要。困ったときは市教委に相談  
して、専門家チームを活用できる。

安部委員：学校機関と外部機関はいろいろなつながりがある。

専門家チームが活用できる事例はあるか。

事務局：そういった事例はある。

千葉盲学校の先生に見え方の研修会（校内）を学校でやらせてもらえばよかったと  
思っている。職員がいち早く児童生徒の困り感に気づけるようにすることが重要  
と考えている。周知が足りなかったことが反省である。

高塚委員：年度初めは情報が多いため、GW 明けの少し落ち着いたところで、担任が子供たち  
のことが見え始めたところで、校長会や教頭会で周知できる機会があれば、伝わ  
るかもしれない。通常の学級で見え方、聞こえ方を整えてあげることで、学習が  
進むこともある。

## ③ 市主催研修について

安部座長：特別支援教育支援員研修会を指導課では長い間やっているが、他の特別支援教育  
支援員と情報交換ができないため、いい機会になったと聞いたことがあるため、  
続けていただきたい。

子どもの関わり方なども、特別新教育支援員の経験もまちまちなので、研修して  
ほしい。

特別支援教育コーディネーターの研修会は1 時間半だが、時間は十分なのか。

事務局：教育課程の編成について、北総教育事務所から出ている資料をもとに説明してい  
る。1 時間半で足りている。終了後に質問に来る先生もいる。

## ④ 就学相談について

岩森委員：就学時検診はいつ頃か。

事務局：10 月後半から11 月にかけて。

岩森委員：お子さんの障がいを受け止められない保護者もいる。就学時検診の頃に就学相談  
会を行うのもいいかと思う。

事務局：就学時検診では、児童が健診を受けている間に、保護者に特別支援教育について説明をしている。

就学時検診では簡易発達検査を実施しており、面談等が必要なお子さんの家庭には連絡をしている。そこから相談が始まり、特別支援学級で入学しているお子さんもいる。

岩森委員：さらに遅い時期に開催があると、参加しやすい。

塩田委員：健康増進課も相談を受ける。

最近の若い人は電話が苦手。市役所では、チャットボットが使える。

言語聴覚士と関わっている人でも、なかなか教育委員会に連絡しない人がいる。

日中連絡がとりづらい人もいる。

小島委員：くれよんに通って、特別支援学級に入学したケースがある。

個人の相談をするのに、早めに動いた方がいいという話がある。相談をいつから開始するのか情報があるとよい。

事務局：年中の相談は、就学相談のお知らせが出てからでよい、と伝えている。

来年度の就学相談説明会はわろうべの里で行うため、どなたでも来られる。どこかのタイミングで情報を流すのも一つと考える。

#### ⑤その他

なし

安部座長：質問等がなければ本日予定していた議題はすべて終了した。座長の任を解かせていただく。事務局にお返しする。

#### 5 閉会

事務局：これで第2回特別支援連携協議会を閉会する。